



文科省の表彰を喜ぶ長五小すくすく教室のメンバー
（長岡京市役所）

住民らが文化・スポーツ指導 長岡第五小校区

放課後教室に文科省表彰

長岡京市の長岡第五小校区の「長五小すくすく教室」が本年度、文科省の「放課後子ども教室推進表彰」を受けた。放課後や週末、住民主体で学校でスポーツや文化活動を指導する組織をいち早く確立。全国1015市町村の7919教室の中から、模範とされる71教室が表彰され、その一つに選ばれた。

運営委「励みになる」

同小校区では国の委託事業で、2004年度から3年間、地域住民が放課後対策として、学校でスポーツなどを指導する活動を展開。地域のネットワークを生かし、人材発掘や組織運営を進め、07年度からは市教委の事業で、市内初の「すくすく教室」を立ちあげた。教室は、住民や学校代表らでつくる委員会が運営。住民約60人が講師登録し、得意分野を生かし、パソコンや陸上競技、勾玉やケーク作りなど多彩なテーマで教室を開く。漢字や計算など学習の補助となる内容や、大学など外部から特別講師を招いた企画も。昨年度は計162日、275回の教室を開催。学校を受け付け窓口には、児童約4900人が参加した。子どもたちも「頑張りたい」と話している。（佐久間卓也）

こともあるし、違う学年も集まるから楽しい」と話す。
長五小すくすく教室をモデルに、同様の活動は市内に広がり、08年度からは全10小校区で行われている。従来、学校にかかわる保護者や卒業生だけでなく、市外から移り住み、退職後に参加している人も多いという。
児童の興味を促す企画づくりや安全対策、教室の確保など苦労もあるが、運営委の後藤国彦会長（64）は「表彰は励みになる。今後

も、社会に出て役立つような経験を子どもたちにしてもらえるよう頑張りたい」と話している。（佐久間卓也）